

# 「たからばこ」

～第2層生活支援コーディネーター向け第3号～

地域の支え合い情報紙「たからばこ」は、地域で頑張っている第2層生活支援コーディネーターの皆さんに向け、第1層協議体（関係者ネットワーク会議）の内容や各地区での活動の様子などを中心に紹介し、地域福祉活動の推進に役立てていただくために、年数回程度の発行を予定しております。

今回は、2月13日に開催された令和4年度第3回関係者ネットワーク会議の内容と参加者の発言からピックアップしたものをお伝えし、次年度に計画している市民向けセミナー（仮称）についても少しご案内します。



グループワークの様子を紹介します

## 【第3回関係者ネットワーク会議のグループワーク】

**テーマ1**は、委員の皆さまで本音トーク「現在、仕事以外で地域活動をしているか」「今の立場に就くまではどうだったか」「あまり積極的でなかった方はどうしてか」という内容でした。

地域福祉懇談会等でも「担い手がない」「役員のなり手がない」「若い人の参加が無い」などの意見が出ていますが、一度立ち止まり「なぜだろう?」「自分はどうなんだ?」と振り返ることで、少しでも解決策のヒントがでるのでは?という期待をこめたテーマでした。

### A: 「活動をしている」

- ・言われればやる、興味があればやる。（比較的若い世代の意見）
- ・自主的に町内の活動をしている、特技をいかしてしている。（ベテラン世代の意見）
- ・こども関係のものは、仕方ないのでしている。義務感、やらされ感でしている。

### A: 「なぜ、積極的でないのか?」

- ・ボランティアなどは、ハードルが高い。
- ・出来上がっているところに入るのは敷居が高い。
- ・休日や夜は自分や家族の時間にも使いたいし、フル稼働の日々で疲れてしまう。
- ・いつか中心人物にされそうで。
- ・普段からあまりそういう活動の方々との関係が無い。
- ・単発で楽しそうなら、子どもと一緒にならなどあれば気軽に参加できるが...

### A: 「今の立場に就く前は どうだった?」

- ・現役時代は最低限にしていた。呼び出されれば行く感じ。
- ・近所ともあいさつ程度。子ども会つながりはしていたが、義務感があった。
- ・親の介護等で余裕がなかった。今の生活で手一杯で、意識がいかない。
- ・若い頃から頑張っていた。
- ・人にふられて初めてできると思う。個人的にでしゃばるのはちょっと躊躇する



テーマ2では、地域活動の参加者・担い手がどうして集まらないかということの理由についてもお話しをさせていただいたので、それをもとに、その解決手段の一つとして行われる「市民セミナー」についてご意見を出していただきました。  
ターゲットにしたい「層」に分かれて考えてみました。



**学生・子育て世代**

『#何かしたい人あつまれ!』

対象：セミナーの部分は、学生向けにし、参加体質をつくり、出会いの場にも  
内容：学生にも登壇してもらい、意見を聞く（例:長岡に住んでいて、こんなことに困っているなど）  
また、活動を紹介してもらう →YouTube発信したり  
×  
親子で参加できる体験イベント  
モノづくりなど

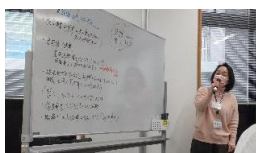


**40~50代の現役世代**

『子どもと一緒に・同世代の話を聞こう』

内容：講演会だけでなく、子どもを巻き込んだものを…  
防災フェアなどと絡めてみたり  
4~50代で地域で活躍している人の話を聞いてみる

↓  
定年後を、介護のことを…といっても、その時にならないと  
実感が湧かないだろう。



**定年後の世代**

『経験しながら・楽しみながら実感して』

内容：今は元気で、定年後暫くは運転もでき外に出ていても、次第に  
行動範囲が狭くなり、「地域に戻る」ことになるのでは？

↓  
”学ぶ”というキーワードには関心が高い世代  
他地域でやっている成功事例や、予防事業等の体験型のイベントを行う



**第3回関係者ネットワーク会議の皆さんです!**



長岡市コミュニティセンター運営研究会	
長岡市民生児童委員協議会	
長岡市深才コミュニティセンター	
長岡市上川西コミュニティセンター	
長岡市福戸コミュニティセンター	
長岡市社会福祉協議会栃尾支所	
(NPO)長岡医療と福祉の里ボランティア連合会	
長岡市地域包括支援センターなかじま・おもてまち	
長岡市社会福祉協議会	
長岡市長寿はつらつ課	
長岡市社会福祉協議会	

発行： 長岡市 長寿はつらつ課 令和5年3月

制作： 長岡市社会福祉協議会 地域福祉課 生活支援コーディネーター 松浦